

こっこめ通信 02 2025

「多かったり少なかったり」号



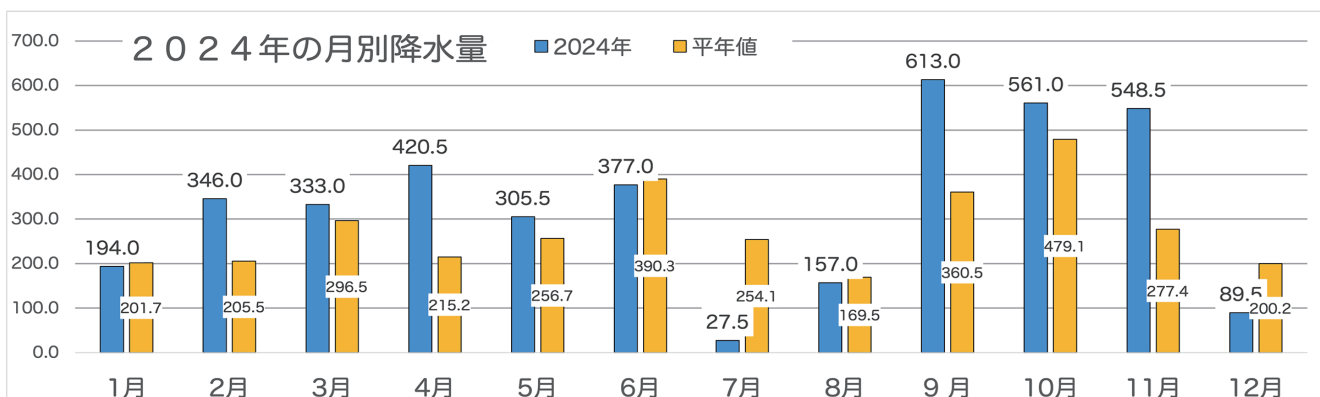
八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて
「こっこめ」とよびます。

早くも1月が終わりました。この冬はビジターセンターから見える八丈富士の山頂が、まだ一度も白くなっていません。今年は内地からの風の吹き出し口が、伊勢湾ではなく、四国辺りになっているため、霰が降る回数も減っている気がします。2月は寒気が強くなる傾向にあるようですが、八丈富士は白くなるでしょうか？

さて、今回は「昨年、2024年の降水を振り返る」「八丈学講座『冬鳥を見よう』」「秋から冬、渡り鳥の様子」についてのお話です。

昨年、2024年の降水を振り返る

2024年は元日から雨が降り、定期船も二日連続欠航の幕開けでした。そして、2月、3月、4月は平年を上回る降水量を記録。特に4月に関しては、平年比198%と多く、4月としては過去8番目に多い記録でした。このまま梅雨に突入してしまうと山の保水力が心配になってしまうと危惧していたところ、その後は一転して少雨へと。



こっこめ通信 2024年8月号でも紹介した通り、梅雨入り発表後からは前線が島より北に位置し、雨は降らず、かといって晴れるわけでもなく、湿度100%のジメジメの日が続きました。7月は平年比11%と少なく、7月としては4番目に少ない記録となりました。さらには7月30日に、八丈島の観測では初めての猛暑日35.5℃を記録しています。8月は平年並みですが、雨の降る日と降らない日がハッキリと分かれていた感じでした。

秋は台風シーズンで、例年降水量が増える傾向にありますが、2024年は接近は少ないものの、降水量は増えた感じです。9月26日頃から前線が停滞し、さらに台風の影響で前線が発達し、三日間で300mm近くの降水がありました。

11月も平年比194%もの降水量で、このまま年間降水量4000mm超えるかと思いきや12月は少雨となり、2024年の年間降水量は3972.5mmでした。1906年からの119年間で14番目に多い降水量になっています。

今年2025年1月の降水量は、2024年の1月とほぼ同じの194.5mmでした。この後の降水は多いのか？少ないのか？1年後にまた検証したいと思います。(H.T.)

年間降水量ランキング(1906～)

1位	1910年	4889.3 mm
2位	1908年	4809.6 mm
3位	1998年	4603.0 mm
4位	1916年	4424.7 mm
5位	2019年	4340.5 mm
6位	2020年	4189.0 mm
7位	1919年	4164.6 mm
8位	1979年	4158.5 mm
9位	1931年	4116.0 mm
10位	1954年	4100.7 mm
11位	1992年	4082.0 mm
12位	1955年	4074.3 mm
13位	1928年	4006.0 mm
14位	2024年	3972.5 mm
15位	2010年	3966.5 mm

「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈学講座「冬鳥を見よう」

1月25日、洞輪沢漁港にて、八丈学講座「冬鳥を見よう」を開催しました。毎年この時期に企画している冬鳥観察の行事ですが、毎回、鳥はいるのか？ビクビクしながらの開催になっています。10年程前は冬になると漁港の中は、何十羽ものカモメ類で凄く賑やかでしたが、ここ数年はとても静かになっています。

今年こそは！と期待していましたが、冬鳥枯れの行事となってしまいました。観察できた種は、ウミウ9、ヒメウ3、オオバン2、ミサゴ2、ノスリ1、キセキレイ1、オオセグロカモメ1、イソシギ1の冬鳥と、留鳥のイソヒヨドリ、シジュウカラ、ウグイスだけでした。それでも、テトラポットに乗ったウミウとヒメウを双眼鏡やフィールドスコープで見比べたり、上空を旋回するノスリを双眼鏡で確認したり、沖で激しくブリーチングするザトウクジラを観察するなど、あっという間に時間が過ぎました。

来年もこの行事を企画する予定ですが、アホウドリ類にスポットを当てて観察するか？場所を変えるべきか？鳥の渡り状況で決めます。もしかしてたくさんのカモメ類が渡ってくるかもしれないですね。(H.T.)



オオセグロカモメ



ヒメウ



ウミウ



ノスリ

秋から冬、渡り鳥の様子

秋に南下してくる渡り鳥は、毎年必ず渡ってくるレギュラーな種は限られ、イレギュラーな種が多いのが八丈島の特徴です。それでも、ここ数年で必ず渡ってきてくれる種も増え始めています。

ここ数年渡って来ることが多くなったマガンは秋に渡ってきて、少し休んで直ぐに旅立ってしまうことが多いのですが、今年は1羽だけは1ヶ月以上の滞在。例年よりも飛来数が多かったオオバンと一緒に、和泉親水公園の池で外来水草のオオカナダモ駆除に励んでくれました。

チョウゲンボウ、ノスリ、ミサゴ、オオタカは猛禽のレギュラー組、今年は植物公園にはレギュラー組のカワセミの姿もありました。

海上の波が高くなって漁港に避難してきたのは、イレギュラー組のクロガモやビロードキンクロ。海が静かになってしまおうと直ぐに港から出てしまいます。神湊漁港には1月に入って、カンムリカイツブリも入ってきました。普段、海岸線にいるクロサギも、波が高くなると漁港内に避難してきますね。

オナガガモ、ヒドリガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オシドリも少数が渡ってきましたが滞在日数が短かったようです。(H.T.)



カワセミ

2024.12.17 植物公園内



チョウゲンボウ

2024.12.23 南原スポーツ公園



クロガモ

2024.12.11 八重根漁港



カンムリカイツブリ

2025.1.29 神湊漁港



クロサギ

2025.1.10 八重根漁港

八丈植物公園季節調査会の報告

今月の季節調査会は参加申し込みが無かったため、スタッフだけで調査を行い、シダ植物20種類を含む73種類の植物を観察しました。スタッフだけの調査でしたが、今回はメインエントランス花壇付近の小さな植物や徳里山の岩壁の隙間などを重点的に見て回りました。春の七草にも数えられているハコベ（観察したのはコハコベでした）が小さな白い花を咲かせていました。まだまだ寒い日が続きますが、植物たちは少しずつ春に向けて準備を始めているようでした。(M.K.)

八丈植物公園季節調査 2025 年 1 月 12 日（日）、天気：くもり、気温：12.9℃ 調査者： VC：木下・玉置

1	ヤブニッケイ	実残る				
2	タコノキ	気根の長さ 63.3cm、太さ 11.2cm、雌株には実				
3	オオタニワタリ	最長丈 118cm、幅 15.5cm、胞子あり				
4	ニオイウツギ	落葉、種はじける、冬芽				
5	ニオイバンマツリ	紫色の葉目立つ				
6	オオシマザクラ	紅葉・冬芽				
7	アオノクマタケラン	熟した実	31	タイミンタチバナ	蕾	53 ヤブツバキ 花・蕾
8	アツバスミレ	閉鎖花	32	タネツケバナ	花・実	
9	アメリカイヌホオズキ	花・実	33	ツルグミ	花・蕾	シダ植物
10	イヌビワ	落葉・実残る	34	ツルソバ	花・実	1 イシカグマ
11	イワニガナ	花	35	ツワブキ	花・実	2 ウチワゴケ 胞子嚢
12	ウスベニニガナ	花・実	36	テイカカズラ	落ちた実	3 オニヤブソテツ 胞子嚢
13	オオアレチノギク	花・実	37	トベラ	実	4 カニクサ 栄養葉
14	オオシマカンズゲ	蕾	38	ハキダメギク	花	5 スギナ
15	オオムラサキシキブ	実	39	ハゼノキ	紅葉	6 タチクラマゴケ 紅葉
16	オニタビラコ	花・実	40	ハチジョウアザミ	花・蕾	7 タチシノブ
17	ガクアジサイ	実	41	ハチジョウキブシ	花芽伸びる	8 タマシダ
18	カジイチゴ	新葉展開	42	ハルジオン	花	9 ナチシケシダ 胞子嚢
19	カタバミ	花	43	ヒガンバナ	葉	10 ノキシノブ 胞子嚢
20	キダチアロエ	花・蕾	44	ヒサカキ	蕾	11 ハチジョウカナワラビ
21	キツネノマゴ	花	45	ヒナギキョウ	花・蕾・実	12 ハチジョウシダ
22	ケナシノジスミレ	花	46	ヒメユズリハ	熟した実	13 ハチジョウベニシダ
23	コハコベ	花・蕾	47	フウトウカズラ	熟した実	14 ヒトツバ 胞子葉
24	サカキカズラ	落ちた実	48	ヘクソカズラ	実残る	15 ヘラシダ 胞子嚢
25	シマクサギ	実	49	マンリョウ	熟した実	16 ホシダ
26	シマテンナンショウ	花・蕾	48	ヘクソカズラ	実残る	17 ホラシノブ
27	スイカズラ	熟した実	49	マンリョウ	熟した実	18 マツバラシ 胞子嚢
28	ススキ sp	実残る	50	ムクゲ	実	19 マメツタ 胞子葉
29	スズメノカタビラ	花	51	ムラサキカタバミ	花	20 ミゾシダ
30	センダン	実	52	ヤツデ	花・実	

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、冬鳥としてやってくる「ノスリ」にスポットを当ててみたいと思います。



ノスリ *Buteo japonicus*

タカ科ノスリ属。「日本鳥類目録改訂8版」によると国内では4亜種が記録されており、小笠原諸島には亜種オガサワラノスリが繁殖しています。八丈島には、北海道から九州に生息している亜種ノスリが冬鳥として、少数が毎年渡ってきています。

飛んでいる姿を下から見ると全体的に白っぽく、翼の先は黒色で、翼角部と腹部には褐色の模様が入っています。(K.T.)

2025
02ハチビジターセンター
プログラムカレンダー日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
 この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります						1 ガイドウォーク 07:26 18:49 00:42 13:02
2 ガイドウォーク 07:51 19:39 01:16 13:42	立春 3 08:15 20:33 01:49 14:27	4 08:37 21:40 02:19 15:19	 5 08:59 23:32 02:45 16:25	6 09:22 16:25 02:59 16:25	7 09:53 19:27 03:26 16:52	8 ガイドウォーク 05:04 12:12 09:02 20:45
9 ガイドウォーク 植物公園季節調査会 05:06 14:13 10:06 21:40	10 05:24 15:20 10:35 22:23	11 ガイドウォーク 05:45 16:09 11:02 22:59	 12 06:05 16:51 11:28 23:30	13 06:23 17:29 11:53 23:59	14 06:40 18:04 12:18 24:18	15 ガイドウォーク 06:55 18:40 00:26 12:45
16 ガイドウォーク 07:12 19:15 00:51 13:13	17 07:29 19:53 01:16 13:43	雨水 18 07:48 20:36 01:40 14:18	19 08:07 21:30 02:02 14:59	20 08:25 23:09 02:21 15:53	 21 08:43 17:15 02:33 17:15	22 ガイドウォーク 八丈学講座 「クジラを探そう」 08:59 19:02
23 ガイドウォーク 04:48 20:23 09:44 21:16	24 ガイドウォーク 04:36 13:39 09:44 21:16	25 04:50 14:51 10:06 22:58	26 05:10 15:44 10:31 23:37	27 05:32 16:33 11:01 23:13	 28 05:56 17:20 11:32 23:49	

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
2/9 (13:30～ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名八丈学講座
「クジラを探そう」毎月行っている八丈学講座。ザトウクジラの解説を行い、双眼鏡を貸出します。一緒に観察しましょう！
2/22 (13:30～ 約1時間半)
誰でも 中之郷藍ヶ江「足湯きらめき」下(予定) 時間内に自由集合 参加費：無料 定員：なし

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日祝日及び休日、(10:30～約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2025.2.1 第285号

開館時間 9:00～16:45 年中無休(入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

今年はヤブツバキの花がとて多く咲いています。秋に降水量が多かったから？夏に雨が少なく、日照時間が長かったから？いろいろな要因はあると思いますが、きれいなヤブツバキの花が撮影できるので嬉しいです。メジロも嬉しそうに蜜を吸っていました。(H.T.)